

Ⅱコリント5章21節「ただ一人の仲保者」

10月31日を宗教改革記念日としています。宗教改革者たちが大事にしたのは、聖書に記されている初代教会の姿であり、みことばに従って教会を建て上げ、みことばに従って信仰生活を送ることです。私たちもそのことを大事にしていきたいと思えます。

1. ただ信仰のみ

ルターは21歳のある時、激しい雷に遭い、死の恐怖に襲われ、とっさに祈りました。「助けてください。聖アンナ様。私は修道士になります」。その誓いを貫いて、彼は2週間後には修道院に入りました。修道生活の中で、彼は自分の罪と向き合い、他のどの修道士よりも熱心に修道生活を送りました。けれども、どんなに熱心に修道生活を行っても「救いの確信」と「心の平安」を得ることができませんでした。自分が義なる神様に裁かれてしまう罪人であるということを痛感していました。行いでは救われぬという苦悩の中にありました。

しかし、大学での聖書講義や教会での説教に備えて、みことばと向き合っている中で彼は、「神の義は、人の行いによって得られるものではなく、神から与えられるものであること、人はそれを受け取ることはできない」ということに目が開かれます。

後にルターは聖書をドイツ語に翻訳します。ローマ書3:28を「人が神に義と認められるのは、律法の行いによるのではない。それは、ただ信仰のみによるのだ」と叫ぶように訳したということです。「ただ信仰のみ」ということがルターの主張の原理となっていきます。「信仰義認」がプロテスタント教会の信仰の中心的な教理となりました。

ルターだけでなく私たちも、みことばによって聖霊が心を照らして下さり、自分の内側を正直に見るなら、自分が罪人であることを認めるようになります。しかし、そのような罪人の自分に、神様が御手を伸ばし、救いを差し出して下さっていることをみことばから知らされます。その神様が与えてくださる救いを感謝して受け取るだけで良いのです。そのときに私たちは救われます。それがただ信仰のみによる救いです。キリストの福音の本質です。

2. 驚くべき交換(Ⅱコリント5:21)

Ⅱコリント5章21節。ここに神様がなして下さる驚くべき交換のことが言われています。まず神様は、「罪を知らない方」すなわち罪の全くないお方、イエス・キリストに私たちの罪をすべて負わせて、「私たちのために罪とされました」。私たちの罪を主イエス様のものであるかのようにみなして扱ったのです。そして、イエス・キリストが十字架上ですべての罪の罰を受けて死なれました。ペテロが書いているように、「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。…キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた」のです(Ⅰペテロ2:22、24)。キリストが私たちの罪を負い、私たちが受けるはずの罰、神の怒りを代わりに受けてくださいました。

これが罪の贖い、贖罪ということです。キリストが「代償のささげ物」となられたということです。罪のための身代わりの犠牲ということは、旧約聖書において様々なことによってあらかじめ示されていました。

イザヤ53章4~6節。「まことに、彼は私たちの病を負い、…私たちの咎のために砕かれたのだ。…主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた」。このことがイエス・キリストの十字架で成就しました。神様は「罪を知らない方を私たちのために罪とされ」たのです。

反対に私たちは「神の義」となることができます。私たち自身のものではない義、キリストの義を、キリストを信じる私たちのものとしていただけます。罪を赦されるだけでなく、義である者、罪のない者と神様が見てくださいます。神様の御前で義である者としての立場を与えてくださるのです。

イザヤ53章10~11節。「苦難のしもべ」は「正しいしもべ」でした。それゆえに「代償のささげ物」となることができました。そして、その身代わりの死によって「多くの人を義と」することになりました。

「その知識によって」というのは、そのしもべは罪人たちを救うために要求されていることが何かを正確に知っているということです。イエス・キリストは父なる神様のみこころを知っており、それに従われたのです。

そのキリストの義がキリストを信じる私たちのものとされます。なぜなら、キリストを信じる者は「キリストのうちにある」からです。Ⅱコリント5章17節。キリストを信じる者はキリストのうちにあるので、神様がキリスト者を見るときに、キリストの義を見てくださるのです。21節の「この方にあつて」ということばも「この方のうちにあつて」です。キリストにあつて「神の義」とされるのです。このように、「神の義」とは罪人を裁くことだけでなく、イエス・キリストを

信じる者を義と認めることも「神の義」です。

こうして驚くべき交換がなされます。私たちの罪を罪のないイエス・キリストが代わりに負って十字架で死なれ、反対に、キリストの義をキリストを信じる私たちのものとしてくださるのです。交換と言っても、同等のものを交換するものではありません。計り知れない価値のあるものと、全く価値のないものとを交換してくださるのです。どれほど感謝しても、感謝しきれないのです。

3. 仲介者は唯一（Iテモテ2:5~6）

救いはキリストによってのみ与えられます。キリストを信じる「ただ信仰のみ」によって与えられます。そのことを確信したルターは、当時ローマ・カトリック教会が行っていた免罪符の販売に異議を唱えます。免罪符とは、それを買うと、諸聖人の功績が他の人の免罪、つまり罪の赦しに用いられるというものでした。ルターは、免罪符を買ったので罪が赦されたとすることを決して認めませんでした。そんなことは聖書に書かれていないからです。

免罪符の販売に至る前から、カトリック教会では、マリアや諸聖人の功績を称える余り、信仰によって彼らの功績にあずかることができると教えていました。それは今でも変わりません。しかし、宗教改革者たちはそのことを排除しました。救いはイエス・キリストのみを通して与えられることを強調しました。

Iテモテ2章5節。この唯一の仲介者、唯一の救い主という聖書の教えに対して、宗教多元主義と呼ばれる考え方があります。登る山道は違っても同じ頂上につながっているように、この世には様々な宗教があるけれども、どの宗教も同じ一つの神に向かっていくのだと考えるのです。しかし、そのように考えるのは、それぞれの宗教をよく知らないからだと思えますし、殊に聖書が教えていることを正しく知らないからだと思えます。

また、この世には、唯一の神、唯一の救い主キリストを信じるキリスト教に対して、独善的だ、心が狭い、対立を生じさせると批判する人々があります。現代は唯一の真理ということが嫌われる傾向があります。作者の意図を求めるよりも、それぞれが解釈すれば良いというポストモダンの時代です。しかし、そのような風潮が行き過ぎるなら、混乱と分断に突き進んでしまうのではないのでしょうか。

聖書ははっきりと宣言しています。「神は唯一」であり、「神と人との間の仲介者も唯一」です。

仲介者とは、交渉がなく互いに排除し合い、対立している両者の間に立って、結び合わせる人のことです。仲介者は両者の身になることができ、また双方とのつながりがなければならず、さらに善意に基づいて一方から他方への代表として行動しなければなりません。

神の御子であり、人となられたイエス・キリストこそ、神と人との間の仲介者になることができます。人の罪のゆえに神と人との間には対立があり、和解が必要です。和解のためには、罪に対する神の怒りが宥められること、また神に逆らう人の心が変えられることが必要です。神様はご自身に背く罪人をそれでも愛し、和解のためにご自身の御子を世に遣わしました。御子キリストは、罪を除いては私たちと同じ人となりました。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたので、私たちの弱さを分かっておられます。その一方で、キリストは御父のみこころに従われ、十字架の死にまで従われました。その死は、私たちが自らの罪のゆえに受けなければならない刑罰を、キリストが代わりに受けてくださったのでした。それゆえにキリストの死によって神と人との間に平和がつくられました。その平和は、すべての過去に対する赦しと、未来に渡って永遠に受け入れてくださるということです。このキリストを信じる信仰によって和解した者は、義と認められ、神との平和を持っているのです。このような神と人との間の仲介者となれるのは、神であり人となられたキリスト・イエスだけです。他にはいません。

罪のないキリストが私たちの罪を負い、十字架で刑罰を受けてくださいました。そして、キリストを信じる私たちには、キリストの義が与えられました。この驚くべき交換、神の恵みを感謝している私たちです。

そして、神と人との間の仲介者は唯一であり、キリスト・イエスであることを信じて、神との平和を持っている私たちです。

私たちは神様にどのように応答し、どのような信仰の歩みができるでしょうか。求めて祈りましょう。主の召しに応えていきましょう。